

会 議 概 要

会議の名称	第6回伊予市食育推進会議
開催年月日	平成26年8月25日（月）
開始・終了時刻	午後3時00分から午後5時10分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	坂本勇人
副会長氏名	吉澤三千久
出席委員（者）氏名	坂本勇人、吉澤三千久、佐々木典彦、高岡小夜子、西田仁美、松本洋子、西岡榮一、上岡慎市、水木一弘、玉井 彰、岩村正雄（澤山陽一代理）、谷本圭司、西田香織（小畑昇子代理）、向井早苗、岡田桂子、平岡由美子、西村淳子、荒木周一郎、武田淳一、坪内圭也、西川重子、武智茂記、亀岡泰三、米湊誠二、鶴岡正直、田中 浩（大西昌治代理）、武智 亨
欠席委員（者）氏名	久保井誠、水口俊三、仲神正樹
傍聴者氏名	傍聴者なし
説明者の職氏名	山内主査、戸田主任
事務局職員職氏名	室健康増進課長、金山課長補佐、山内主査、戸田主任
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 自己紹介 5 会長、副会長の選出について 6 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各団体の取組及び食育に関する意見について (2) 食育推進連絡会報告 (3) 伊予市食育1・4推進計画の見直しについて (4) 意見交換 7 そ の 他 8 閉 会
配布資料	資 料 1 伊予市食育推進会議委員名簿 資 料 2 伊予市食育推進会議条例 資 料 3 平成26年度各団体の食育の取組及び食育推進についての意見 資 料 4 伊予市食育関係事業実施状況一覧 資 料 5 食育推進連絡会報告 資 料 6 伊予市食育1・4推進計画の見直しについて 資 料 7 食育フェスタ他について

会 議 録

発言者	会議の概要
15:00～ 開会宣言 事務局	<p>ただいまから第6回伊予市食育推進会議を開催させていただきます。</p> <p>皆様には御多忙の中、御出席をいただきありがとうございます。</p> <p>会議資料を各委員さんへ事前にお送りいたしておりますが、御持参いただくようお願いしていたしました。お持ちでない委員さんがいらっしゃいましたらお知らせください。皆さんお持ちですか。</p> <p>では、本日は委員の委嘱状の交付の後、会長、副会長の選出、議事へと進ませていただきます。</p> <p>なお、本会議は、伊予市審議会等の委員の公募並びに会議及び会議録の公開に関する規則にのっとり、市政の公正の確保と透明性の向上のため、原則公開とし、会議内容を議事録作成のため録音させていただきますとともに、市ホームページに会議録を掲載させていただきますことを御了承願います。また、会議録作成後、録音は消去いたしますので、よろしくお願います。</p> <p>それでは、このたび伊予市食育推進会議委員をお受けいただきました皆様に委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>本来であれば、委員お一人お一人に直接委嘱状をお渡しすべきところではございますが、代表の方にお受けいただきたいと思っております。</p> <p>それでは、委員を代表されまして坂本勇人様、その場でお立ちいただき、お受け取りいただきたいと存じます。</p> <p>それでは、山先副市長、よろしくお願います。</p>
委嘱状交付	<p>坂本勇人様。伊予市食育推進会議委員に委嘱します。平成26年8月25日。伊予市長武智邦典。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。なお、ほかの委員の皆様への委嘱状及び辞令は、お手元に置かせていただいておりますので、御了承のほどお願いたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、副市長山先より御挨拶を申し上げます。</p>
開会あいさつ	<p>市長が所用のため、副市長の山先でございますが、市長の御挨拶状を預かってまいりましたので、代読をさせていただきます。</p> <p>今年は例年になく雨が多く、全国各地で土砂災害や浸水害が報告されております。とりわけ広島の大規模な土砂災害にありましては、多くの犠牲者が発生をし、今もなお行方のわからない方が多数存在するとともに、2,000人を超す市民が避難生活を余儀なくされてお</p>

	<p>ます。犠牲になられた方々の御冥福をお祈りするとともに、行方不明者の一刻も早い救出と早急な救護を願っているところです。</p> <p>さて、このたび人事異動等により新たに 15 人の方に委員の就任を申しあげましたところ、皆様御快諾をいただき、先ほど総勢 30 名の皆様に食育推進会議委員として委嘱を申しあげました。委員の皆様方におかれましては、公私ともに大変お忙しい中、御出席をいただきまして、改めてお礼を申しあげます。</p> <p>さて、この食育推進会議は、伊予市が食育を総合的かつ計画的に推進するため、食育基本法に基づき、平成 23 年 6 月に設置をしたものであり、平成 23 年 3 月に策定いたしました伊予市の食育推進計画、すなわち伊予市食育 1・4 推進計画、い～よ！いよしの食育物語に基づき、実際に食育の推進に取り組まれているそれぞれの委員の皆様の専門的な視点での御意見や御提言を賜りながら、具体的な食育の推進を図っていくものであります。特に、あじの郷づくりの事業としてスタートいたしました市内の保育所、幼稚園の就学前の子供を対象にしたキッズキッチンは、平成 25 年 4 月、総合保健福祉センターの開所と同時に、実施場所を保健センターの調理実習室に移し、食育推進会議の作業部会となる食育連絡会の皆様を中心となり、未来を担う子供たちの食育への関心を高めていただいているところであります。また、地場産品の普及と地産地消の推進のため、食育フェスタや学校給食における地産地消率の向上など、それぞれの分野で食育の推進に積極的に取り組んでいただき、それぞれに成果が得られております。平成 27 年度には、食育推進計画の最終年度を迎えますので、今までの取り組みの実績を踏まえて、評価、計画の見直しをお願いしたいと存じます。今後、さらに食育推進活動を発展させ、市民の皆様が生涯を通して心豊かで健やかな生活を送っていただくためには、皆様方のお力添えが何よりも不可欠でございます。委員の皆様には、それぞれの立場から食育の推進に対して率直な御意見、御指導を賜りますよう改めてお願い申し上げる次第であります。</p> <p>終わりに、議会のますますの御発展と皆様方の御活躍、御健勝を心から祈念申し上げまして、簡単ではございますが挨拶といたします。平成 26 年 8 月 25 日。伊予市長。代読。ありがとうございます。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして、本日委嘱して初めての会ですので、皆様に自己紹介をお願いいたしたいと思っております。委員名簿がございますので、席順で坂本様からお願いをいたします。</p>
全出席委員	<p>委員が名簿順に自己紹介をする。</p>

事務局	続いて、事務局職員の自己紹介をいたします。
事務局職員	職員が自己紹介。
事務局	<p>本日の欠席の方について御報告いたします。本日久保井委員さん、水口委員さん、仲神委員さんが御欠席ということで御連絡をいただいております。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、副市長におきましては、ほかの公務がございますので、ここで退席いたします。御了承いただきますようお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>本日の伊予市食育推進会議は、資料 2、伊予市食育推進会議条例に基づき開催しておりますので、御確認ください。</p> <p>それでは、議事に入ります前に、食育推進会議条例第 5 条に基づきまして、会長、副会長の選任を行いたいと思います。なお、委員の互選によりこれを定めるとなっておりますので、よろしく申し上げます。どのような方法で選出いたしまししょうか。</p>
委員	事務局に一任します。
事務局	構いませんか。そうしましたら、事務局案を申し上げます。会長に伊予医師会理事坂本勇人様、副会長に直販市代表でありますごしきの里代表吉澤三千久様に御就任いただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。
委員	異議なし。
事務局	<p>ありがとうございます。それでは、坂本委員、吉澤委員、よろしく申し上げます。坂本委員は会長席へ、吉澤委員は副会長席へ移動をお願いします。</p> <p>それでは、坂本会長、吉澤副会長に就任の御挨拶をお願いいたします。最初に坂本会長、よろしく申し上げます。</p>
会長	<p>座ったままで失礼いたします。月日の経つのは早いもので、思い起こせば、平成 22 年にこの計画の策定委員会が始まりまして、それ以来の議長を務めさせていただいております。今年の 2 月 14 日、第 5 回伊予市食育推進会議の際には佐々木先生、ありがとうございました。石川県歯科医師会の冊子をいただきまして、よく読ませていただきました。五感を発達させるためには、子供のときからの食育が大切であること。また、味覚について、玉井委員には味覚教育の話をもっと進められると思いますが、よろしく申し上げます。今年は先ほど副市長からもありましたが、台風 11 号、また広島では土砂災害が起こり、大変な思いをしております。愛媛でも野菜の値段が高騰し、生活に影響が出ております。食育というのは、やはり高齢者にもかかわります。推進計画が今後ますます発展していくことを願っております。簡単ではございますが、挨拶にかえます。</p>

副会長	失礼いたします。吉澤と申します。よろしく申し上げます。この腹で食育を引き受けるといのは、何か恐れ多いような気もするのですが、一生懸命頑張りますので、よろしく願いいたします。
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、議事に移りたいと思います。この後の議事進行につきまして、食育推進会議条例第 6 条の規定に基づき、会長が議長を務めることになっておりますので、坂本会長にお願いしたいと思ひます。</p> <p>坂本会長、どうぞよろしくお願ひします。</p>
議事進行（議長）	<p>それでは、議題に沿って議事を進行させていただきます。</p> <p>議題（1）各団体の取り組み及び食育に関する意見についてお願いいたします。</p>
議題(1) 事務局	<p>失礼します。資料 3 をご覧ください。各団体の取り組みや食育に関する意見をまとめたものです。資料 4 は、市の食育関係事業一覧です。資料 4 は参考資料として準備いたしました。</p> <p>それでは、資料 3 について、資料に掲載している順番で、ごしきの里の吉澤委員から内容について簡単に説明いたしたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>資料をご覧ください。まず料理教室の取組ですが、食を通して親子で触れ合う機会をつくりたいと思っております。そして、県魚である鯛を子供にも大人にも身近な魚にしたいということで、このような取り組みをしております。最近、魚離れというか、魚をさばく大人も子供も少なくなっておりまして、切り身の魚を買うことが多いので、できるだけさばく機会を作ろうということで、父の日にあわせまして、「児童センターみんくる」と共同で料理教室を開かせていただきました。また、12 月にはクリスマス会を予定しております。パンを使ったクリスマスリースを作って、できるだけ食品に興味を持っていただくことを目的に実施します。</p> <p>今、様々な会議においても、非常に仕出しを取る機会が多く、料理を作る人の影が非常に薄いような気がしております。それを少し作る人が見える会議のあり方も取り入れたらよいのではないかと。ということで、調理をしながらの食事会を計画しております。いわゆる昔ありました隣近所でできた料理を交換し合う、お裾分けの文化、そういった文化を取り入れて人間関係を作っていきたいと思っております。</p> <p>また、直販所で、食の安全と栄養バランスを考えた展示の仕方を工夫したらどうかということ。地域でも高齢者が多くなりまして、なかなか店に足を運んできにくい状態が生まれております。自宅まで届けられるような工夫をし、買い物難民を防ぎたいと思っ</p>

	<p>ております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>前回からマザー教室に参加されている若い妊婦に「お口の機能を育てましょう」というパンフレットを使い、講話をしております。このパンフレットですけれども、普通人間は口から物を食べます。これが、口から食べられなくなったら、鼻から栄養補給、中心静脈栄養から直接栄養を入れるようになります。基本は口から食べるのが人間らしい行為というか、生物として当たり前の姿だと思います。その口の中に、歯がありますけれども、歯がなくなったらどうなるかといいましたら、食べられる物と食べられない物が出てくる。お年をとっても歯がたくさんあると健康だと言われるのは、つまり健康寿命が長いというのは、それだけ満遍なくいろんな物を食べられているから、結果として健康になっている。という、ごく当たり前の自然な考え方なのです。もちろん歯がなくても義歯、入れ歯であったり、最近でしたらインプラントなど、歯科技術としても色々ありますけど、技術ゆえに、不都合や障害があったりするわけです。一番よいのは、オギャーと生まれてからしばらくしたら歯が生えてくる、天然自然の歯なのです。私は平たく言って、それは神様がわたしたちに与えてくれたわけですから、一番いいに決まっているわというような言い方をします。その歯を最後まで守るとというのが私たち、歯科医師の使命なのです。そのように口の中の健康を通じて社会に役に立とうという、そういう職業なわけです。その中で、お口の機能を育てるということで、先ほども触れましたけれども、このパンフレットにもあります、五感を育てるということが可能なわけですね。それを若いお母さん方にも、人生の先輩として少しずつアドバイスができたらなと思いながら、仕事を手がけていっている次第です。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>食生活改善推進協議会の平成26年度の取り組みについてお伝えします。</p> <p>活動目標としまして、健全な食生活や生活習慣の定着を図るため実践に努めます。運動、休養、それから栄養に関する知識と技術の普及に努めます。伊予市食育1・4推進計画、い〜よ！いよしの食育物語推進に努めます。第2次伊予市健康づくり計画の推進に努めます。生活習慣病、骨粗鬆症を予防し、健全な家庭生活を目指します。それから、地域で調理実習を含む講習会を開催いたします。薄味の普及に努めます。それから、食生活の相談を受け、健康づくりの案内役に努めます。若いリーダーの育成に努めます。以上が今年度の目標です。</p> <p>具体的な事業といたしましては、グループ伝達講習会の開催、グ</p>

	<p>ループ自主活動助成金の交付、それから生涯骨太クッキング 1 回、それから親子の食育教室 1 回、男性のための料理教室 1 回、ヘルスマイトTUNAGUパートナーシップ事業 1 回、それから明治クッキングサロンを 1 回、お魚料理普及講習会をいたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>生活研究会では、農山漁村の女性でつくるグループで、地域でとれた農産物を使った食育に重点を置いた活動をしています。</p> <p>文化普及講座として、伊予市の双海町内の小学校において実施して、日時としては 26 年 11 月 25 日、翠小学校で行い、対象は児童約 10 名、内容は地域農産物を活用した鯛飯やつみれ汁、筑前煮、サツマイモのオレンジ煮等の郷土料理を伝承することをやっております。</p> <p>また、消費者との交流で、毎年、各地のイベントに出店して、伊予地区の味を伝えています。</p> <p>伊〜よ！どきどきわくわく味フェスタとして、日時、場所は未定です。対象、一般の消費者の方で、内容は伊予地区の農林水産物を利用した枝豆入り米粉のすいとんの実演販売やグループの加工品紹介、販売、レシピ紹介を通して、消費者と交流し、地域農産物や農業に対する理解を深めていくことを目的としたイベントです。</p> <p>秋・採れ獲れまつりですが、開催日時は平成 26 年 10 月 26 日で、伊予市の市民総合文化祭のふるさとフェスティバルと同時開催しております。対象は一般の消費者で、内容は巻きずしづくりや漬物づくり体験、農産物の販売等です。</p> <p>また、ふるさとづくり推進大会への参加もいたします。県下協議会の会員と消費者約 500 名が参加する大会で、日時は平成 26 年 9 月 5 日、内容は各地区生活研究グループが、自慢の農産物等や加工品を出品する。郷土料理等の展示、試食のほかに、講演会や活動発表などが行われています。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>上灘漁協女性部では、双海町シーサイド協議会と協力して、町内外の小・中学生の体験交流学習、双海町おもしろ教室等により魚食普及に努めております。</p> <p>また、小・中学生、一般を対象に、県の魚ママさんと協力して、お魚料理教室を年 3 回程度開催しております。</p> <p>その他、夏祭りや上灘公民館祭りイベントにおいて、料理実演、展示、試食等の魚料理の指導を行い、魚食の普及に努めております。</p> <p>また、年間を通じて、大人、子供でじゃこてんづくり体験等も行ってまいります。</p>

委員	<p>私は双海で自然豊かな翠地区で、美しい川、空気、緑を見ながら70年間育ってきました。8年前に県の農政課より市町村合併1年前にグリーンツーリズムを立ち上げました。それ以降、大勢の方の受け入れをしてまいりましたが、現在はイチゴ狩りとかブルーベリー収穫、それから豆腐、コンニャクづくり、ピザ焼き体験などしております。体験の中で地産地消と低農薬の推進ということで、産直市場へも双海からもたくさん地元産物を出荷しております。低農薬に関しましては、夏場の害虫の発生しやすい時期には作物を作ることにはしないように、害虫が少ない、農薬の要らない冬場は、大根、タマネギ、バレイショ、ニンジン、ゴボウ、枝豆など、農薬を一切使わないでも育つものから取り組んでおります。双海の医師であります梶原先生が、「子供たち、また老人ホームや保育園には、地元産の低農薬の野菜、果物をみんなで協力して食べられるような流れを、早く実現していただきたい。」ということを常におっしゃっております。給食等には安全な食材を使っていたくようなことを努力しておるところでございます。</p> <p>以上です。</p>
委員	<p>小・中学生にとって、食は、体を作るために一番大きく影響するものだと思っております。先日ですが、8月17日に市P連の役員研修会がございまして、中山町クラフトの里にてそば打ち体験を行ったのですが、その中で地元の生産者などからの話も聞きながら、伊予市の食育について役員に学んでもらいました。また、保護者の皆さんとお話ししていく中で、食のあり方や特産品のこと、子供たちが安心・安全にすくすく育つような意見も出しました。また、地産地消で学校給食等へなるべく地元で育った安心な野菜を取り入れて地元のもの食べたいという意見もございました。各学校でいろいろな取り組みはあると思うのですが、私の地元の佐礼谷小学校では、子供たちが自分で野菜の種をまいて、収穫、田植え、稲刈りなどを体験しております。「自分で育てておいしく食べる。」一番の基本で、とても大事なことです。伊予市内の子供たちにはないと思いたいのですが、都会では本当に骨のない魚が泳いでいると信じている子供もたくさんいると聞きます。野菜もトマトやキュウリはわかるけど、苗の状態では何の野菜かわからない子供たちも伊予市内でも増えてきていると思います。子供たちの体をつくる上で、食はとても大切だと思っておりますので、今後も、もっと子供たちに触れて、いろいろな経験をさせてあげたいと思っております。</p> <p>簡単ですが、以上です。</p>
委員	<p>市町村合併いたしまして、約10年を迎えます。その間、伊予市に</p>

	<p>はこれという特徴のお菓子が無いということで、本年度、県の商工会等地域活性化支援事業を活用し、伊予市の農産物を利用したオリジナルスイーツ作りの取り組みを始めさせていただいております。</p> <p>伊予市には、唐川ビワとか中山栗とか長ナスなど、いろいろな特徴のある農産物があります。また、これら以外にもたくさん農産物があると思います。そういうものを使い、伊予市独自のスイーツができないかな。ということで取り組みを始めまして、当初はプロの方につくっていただいたらいいんじゃないかという案があったのですが、今回は一般からのオリジナルレシピを募集いたしまして、商品開発に取り組みもうということになっております。今日、応募のチラシを新聞折り込みに入れさせていただきました。もうごらんになった方がいらっしゃるかもしれません。このチラシを伊予市全域に配布をさせていただいております。皆さんもよろしければ応募、また周知をしていただければと思っております。</p> <p>商工会議所ですので、どうしても健康づくりよりも、営業が先に立ってしまい、伊予市の活性化ということのほうに力を入れてさせていただいておりますが、旧伊予市、双海、中山の商工会、地区もあわせまして、伊予市全体で何かこういう一つの伊予市の目玉になるものができるかなということで今取り組みをさせていただいております。</p> <p>それと、もう一点、今大平のほうで土香里という施設の方が、カンムリタケというキノコをつくられています。これの商品開発にも26年度から取り組みをするように決まりましたので、また御紹介をさせていただきます。カンムリタケは非常に栄養価の高いキノコで、原産は北海道や東北地方で自然に自生しているようなキノコのなんですけども、これから伊予市でもつくっていくということで、すでに御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、こちらの商品開発という形でも、食の取り組みをさせていただくようになっております。以上です。</p>
委員	<p>伊豫國「あじの郷」づくりとして実行したいこと等を含めて、私の考えに交えて発言させていただきます。</p> <p>食育ということに関して、一つのポイントは、特に子供さんについて言えば、お客様にしない、君らが生きていくんだよということを前提に、我々が子供たちに接していかなければいけないと思います。その一つの手始めとして、保健センターの皆さんの御努力もあり、キッズキッチンがほぼ定着してきたということは、大変よかったなと思います。それに加えて、小学校の高学年、この時期に味蕾という味覚、味覚といいますと甘味とか塩味とか酸味とか苦味とか、</p>

そして最後にうま味というふうなことがよく言われているのですが、うま味を敏感に感じ取る細胞が一番発達している時期が、小学校高学年時代であると言われております。その時期に味覚教育をしっかりとやることによって、子供たちが生きていく上での武器をお持ちいただきたい。といいますのも、最近食品偽装問題、特に中国でそういう問題がある。これは中国だけの問題でなくて、我が国でも起こっております。偽装をすればもうかるという、どうしてもその経済の論理の中で横行するわけで、それをやっぱり我々も含めて子供たちが自分たちで見分けて生き残っていくと。昔は当然そうだったと思うのですが、においをかいで食べられるかどうかを自分で判断するとか、におい、それから舌できちんと感じ取って自己防衛するという部分も必要だと思います。制度的に偽装を排除するというのは必要ですけれども、これからの21世紀生き残っていくためには、やっぱり私たち、あるいは子供たちには、そういう武器を自分たちの中で持っていかなければならないと思います。そういう意味では、食育というものを、子供たちが主体性を持って、自分たちが成長し、生き残っていくということを、そのための武器を持つのだという意識の中で考えていきたいなと思います。

一昨日、私たちが商店街でみなみ夜市というものを実行してまして、多くの皆さんに来ていただきました。その中で「いよ de ネシア」という企画がありました。これは、E4(イーフォー)という組織がありまして、私もそのメンバーなのですが、会長は栄養寺の高橋さんで、事務局がウェルピア伊予にあります。次世代のリーダーを養成するという一つのテーマの中で、あるいは持続可能な地域づくりということもテーマとして行っているのですが、その中で伊予農高の生徒さん、伊豫國「あじの郷」づくりでも伊予農高の生徒さんには大変お世話になっているのですが、この企画の中でも、伊予農高さん、それから愛媛大学の学生さん、インドネシアの留学生の方のコラボレーションで、インドネシア料理と伊予市のだし文化、これを融合したようなものをつくろうということで、実験的な企画としてさせていただきました。一定の反響もあったと思います。その研究の実行段階で、ヤマキの方にだしについての教育をしていただきました。そこで、一つの教材を見せていただきました。これが大変おもしろい教材でありまして、伊予市で配布されているのかと聞きましたら、TOS Sという食品関係の研究団体で作成しておる分で、これはヤマキさんも参加されておりますけれども、必要性があれば、配布していただけるということでした。伊予市においては、当然ながら、削り節というのが全国的に有名であり

	<p>ますし、この伊予市で育った子供たちには、その削り節を含めたおいしい文化というものをよく理解していただいて、自分たちの地域はどのような地域であると、基幹産業がこういうふうなんだということも含めて食育の中に入れていただいて、マルトモさん、ヤマキさんには、要請があればスタッフを派遣しますということも言っていたいております。また愛媛県の教育委員会も含めて、色々なところで出前教育をやっておられるということで、その中で特に私が言いたいのは、先ほどは、味覚教育の防衛的側面を言いましたけれども、この、舌の発達した子供たちが学校や地域で大量に出るということは、これは一つのある意味では産業基盤という言い方をあえてしたいんですけれども、これからは食の時代であって、その食に対する自分たちの防衛ということも必要ですし、それから食について感受性が高いことによって、私たちのこの伊予市から、食についてのすばらしいシェフや、料理人などが出るそういう故郷になれる可能性がある。味覚教育は、全国的にそれほど進んでいるわけではありませんので、伊予市でできれば積極的にこれに取り組んでいただけるようにしていただきたいと思っております。</p> <p>どうかよろしく願いいたします。</p>
委員	<p>伊予農業高校です。先ほど、玉井委員さんより伊予農業高校の取り組みも一部紹介していただいたのですが、新たなメニューの開発に、本校生物工学科を始め、6学科あるのですが、各学科いろんな分野で取り組んでおります。その中で、今回、新商品の開発ということで、あじの郷五勇士、ミカン、ビワ、クリ、タイ、ハモ。これらをそれぞれ使った裸麦パンをつくりまして、それを5つセットで箱詰めにして伊予市の特産品的なものにしたいということで、生徒たちが取り組んで、実際にいろんなところで販売とかもやって、当初はそういうセットにしたら売れないのではないかとか。というような話も出たみたいですが、結果として箱のデザインとかそういうことをきちんとやって、いい感じで出てきているので、今後、伊予市の商品として売り出すようなことになればいいなと思っております。</p> <p>それから、各学科、幼稚園とか小学校と連携したいろんな活動をやっております、その中でいろんな食育の活動ができていると思うのですが、高校生徒にとっては、児童・生徒に教える中で、また自分たち自身も食について学べるような勉強の下敷きになっているのではないかなと思います。</p> <p>また、安心・安全な農産物の生産ということで、住宅地に水田が囲まれまして、しんどい状況にはなっていますが、その中で、アイ</p>

	<p>ガモを用いた減農薬稲作やっております。周辺の住宅の子供たちが見に来てくれたりとかもあり、以前は多少苦情もあったのですが、ここ何年間は苦情もなく、逆にちょっと元気のないアイガモがいたらすぐ連絡をもらったりしており、アイガモを見るだけでも、子供たちの食育につながっているのではないかなと感じております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>続きまして、伊予市内の各小・中学校における取り組みを御紹介させていただきます。</p> <p>各小・中学校は、それぞれの地域に応じていろんな特色ある取り組みをしているかと思うのですが、その中で共通に、主に取り組んでいることのみを上げさせていただきました。</p> <p>まず1つ目ですが、学校給食が中心になるかと思うのですが、試食会を開いて保護者の方に学校給食への理解とか関心を高めるような取り組みを各学校行っております。また、小学校においては、参観日に食に関する授業を実施して、家庭における食育を広げていく場というふうなことで啓発に努めてということになっております。</p> <p>また、これは各学校、特に大きな取り組み内容ですが、学校給食における食物アレルギーの児童・生徒への対応、これを調査し、またそれにも細かな対応を行っているのが現状であります。</p> <p>それから、先ほど幾つか出てきましたが、地場産物の活用ということで、ここに上げてさせていただいていますように、21年9月からは伊予市産のハモを給食の中に活用していく。23年度からは伊予市産のお米を使用する、24年9月からは、伊予市でとれた野菜とか果物を給食で使用していくという形で進めております。昨年度、11月の愛媛県内産の使用割合というのが、食材数ベースで41.1%になっておるとのことのようです。</p> <p>それから、食に関する指導では、授業を公開して、栄養教諭がおりますので、指導力の向上を図るということで、26年度郡中小学校と北山崎小学校で実施をしております。</p> <p>それから、毎年夏休み中に市内の給食調理員の研修会を行って、衛生管理について研修を行っているのが現状でございます。</p> <p>その下、私が所属しているのが港南中学校ですので、そこに港南中学校ではそれ以外にこういうことも行っていますというのを記載させていただいております。以上です</p>
<p>委員</p>	<p>同じ学校なので、報告内容は重なっておりますので、私からは、成功した例と課題ということでお話しさせていただいたらと思います。</p>

以前にこの食育推進会議という名前ではなかったかと思いますが、ハモについてもこういう会議でハモの利用ができるのではないかと。ということで、利用可能であれば、学校給食に是非利用したいのですがと、仲立ちをしていただいて、夕焼けぴちぴち市で、すり身なら学校給食に提供ができるよ。ということになりまして、それから9月と1月、ハモがとれる時期にはすり身でお汁を作ったり、揚げ物をしたりして、大分子供たちのほうにもハモは伊予市でとれる有名な魚だということが食を通じて定着してきたかなと思います。

もう一つは、地域の方のアイデアで、港南中学校は佐礼谷と取引をしているのですが、トマトがたくさんとれたらトマトピューレを使ってトマトうどんができるよ。ということで、最初自分のところで作った小麦粉もあるからそれで作ってみないかということで、市内の麺屋さんの協力を得て、冷やしトマトうどんを提供いたしました。今年度も子供たちがトマトうどん出るとかということで、9月にはそれぞれの学校給食室でトマトうどんをメニューに取り入れています。それらの事例は、ちょっとしたアドバイスをいただいて成功した例です。一方、うまくいっていないこととしては、学校給食で地元の野菜をどんどん使ったらいいじゃないかと皆さん思われるかと思いますが、例えば港南中学校だったら、ジャガイモならば、1回に85キロから100キロぐらいの量が必要です。そうすると、「そんなにジャガイモがありませんので、出せません。」となります。市内の6施設の給食室が使おうとすると、かなりの量確保していただけないと使えない、進めないということで、地産地消も二の足を踏んでいるところがあります。伊予市の御厚意で、お米については伊予市産のお米を使うことができるようになりました。それからJAの御協力でおひさま市から、伊予市産のお野菜を集めていただいて、各施設に納めていただけるようになりました。今月はこんなものが使えますよと、事前にお話をいただいて、それに対してこちらがじゃあ何々を注文しますという形をとっております。それでもとれない場合も出てきますし、この9月からは多分もっと不安定になると思うのですが、その場合は、おひさま市のほうで愛媛県産のものを探してみますとかと、仲立ちをしてくださる方がいるとうまくいくのですが、なかなか農家の方と1対1ではうまくいかないのと、地産地消の問題はそういう量の確保とか、見越して何をとれるとかかというようなところで計画性も必要なので、そういうところで、私たちがどんどん使っていきたいのですが、難しいところもあります。

それから、魚について、伊予市はいろんな魚がとれるので、使っ

	<p>てみたらどうかというお声もいただいているのですが、給食に使うには、加工をしていただいた上に、使用するのは翌月、1 カ月分の献立で注文を出すので、加工できる施設が必要になってきます。今は上灘の共栄網さんで「イワシのから揚げ」という加工品がありますので、それを使わせていただいて、やっと地元の魚を使えているかなというような現状です。</p> <p>またいろいろアドバイスいただきたいと思います。よろしく願いします。</p>
委員	<p>市民公募でこちらに参加させていただいております。私は、栄養教育の必要性について皆さんに知っていただきたいと思います。私ごとですが、以前、3,000 人ほどの職員数で、24 時間体制で、地域の皆様のために尽くしている、ある職場におりました。その職場は55 歳が定年退職でしたが、定年退職を前にして、また、退職して少したった頃に亡くなる方がたくさんいました。それが定年の年齢が60 歳に延びたら、現職中の57、8 歳で亡くなる人がたくさんいました。62、3 歳で亡くなる人もいます。今は65 歳ぐらいまで延長しているようになっているようですが、その当時、私は技術職員でしたので、健康管理に関する部門ではありませんでしたが、そちらの職員の人たちも、本当に力尽くされていました。職員の健康で過ごすために、健康診断は非常に進んでいたのです。健康診断項目もかなりなものでした。だから、早期発見につながるように力を尽くしていきまして、何か見つければ、その後は充実したフォロー体制をとっておりました。1、2 時間の健康講座をしておりましたが、それに全員が参加できるわけではなく、2 時間程度のお話だけでは教育にはつながっていないのではないかと、私は個人的に思っておりました。これだけたくさんの方が亡くなっていく中で、何が一番重要なのだろうと思っておりましたし、自分自身もそういう年齢に近づくとつれて、体調を完全に壊しました。</p> <p>私は早期退職した後、栄養士課程に入学して勉強したのですが、そのときの経験で、将来、栄養士としてプロの栄養、健康にかかわっていく人を育てる、教育の中に回答があるのではと思ったのです。この間まで高校生であった若い人たちに、どのように教育していくのか。教育方法論だとか、そういうシステム論だとかも多少勉強して、自分が生徒として授業に入ってみると、先生方の教育方法は、もう本当に素晴らしい内容でした。やはり教育は教育者に任せるのが一番だと思いました。その中で、それぞれが健康に過ごすために、食品が体にとってどういうふうに変化する、体の機能がどうある、腎臓、肝臓がどのように働いてどうなるから栄養がこうなるという</p>

ようなところを、学生だけじゃなく、一般の人も学ぶことが必要ではないかと思います。大学の先生に、「この授業を地域に出てきてやってくださいませんか。」と私は頼みました。すると、「行きたいです。でも呼んでもらわないことには行けませんので。」と言ってくださいました。中央公民館の市民企画講座であります郡中ライフアップ講座で、基礎栄養講座を大学の先生にお願いしましたが、好評であったと思います。が、一度きりでなく、継続した講座が必要だと思います。様々な食育関係機関が、それぞれ色々な食育をされてきたと思うのですが、ここ、伊予市は、佐伯先生も生まれた土地なので、栄養教育の発祥の地なのですね。栄養教育というのは、単発では効果は少ないと思います。学校は小学校、中学校、今、高校と栄養教育を進められておりますけれど、地域でも学校でしている以上のことが、いろんな立場の市民に対して必要だと思うのです。大学の先生方は、十分対応をしてくださると思います。お招きすれば皆さん来てくださるような感触を私は持っています。それで、自分の病気で済生会病院にかかっているのですが、そちらの院長先生がお話しされた、済生会松山の25年春号という済生会病院の記事にも、病院側もじっと患者さんを待っているのではなく、地域に出て啓発活動をしていくと。糖尿病教室なども病院の中で、昼も夜もやってらっしゃるのですけれど、それだけではなくて、地域に出ていって啓発活動を試験的にやっているそうです。他の地域にも出ていく予定もあると、記事にもありますので、今は病院の先生方もそう、大学の教育にかかわっている先生方もそう、みんな地域に出て、地域の人にこれをやらないといけないうてそういう意識の高まりがあります。是非伊予市としても行政として受け入れ、講座体制を作っていただいたら、市民の皆さんがもっと元気になれるのではないかと思うのです。キッズキッチンを見学に来たという、東京の子供の方だったと思うのですが、伊予市役所と書いた封筒を皆さんかなりの数の方が持ってJRの汽車に乗っていたのですね。私は、たまたま乗り合わせて、市役所の封筒を持っているから、「何しに来られたのですか。」って聞いたら、キッズキッチンの見学に来たと言われておりました。かなり遠くの地域でしたけど、それほどキッズキッチンは本当に有名になりました。けれど、子供の食教育は、調理だけではないのですね。子供の授業は栄養教育で、学校で少しずつしています。子どもたちは、他の勉強もしなければなりませんから、少しずつしていますけど、御家庭のお父さん、お母さん方に、もっともっと基礎教育が必要だと思っています。そう考えておりますので、よろしければ、参考にしていただきたいと思います。よろしく

	<p>お願いします。</p>
委員	<p>私、4年前まで愛媛県で養護教諭をさせていただいておりました関係上、食育ということには随分携わってまいりました。今は町家で、小さな手づくりのお店をしております。私は手づくりがすごく好きなのです。何かお役に立つようなことができるかなあと考えておりましたら、今年、伊予市の栄養の先生方から依頼がありまして、食育に関係する掲示物、授業などにも使える媒体を作りたいという依頼がありました。これはフェルトという生地を使って作っております。磁石を中に入れておりますので、黒板につけることができます。手に触れてもすごくやわらかくて、温かみのある素材ですので、これを栄養士の先生方につくっていただこうと思ひまして、これらを作ることを考案しました。当日は11名の先生方に集まっておりました。糸と針を使うと随分時間がかかりますので、これはホットボンドという素材を使っています。すごく簡単にできるものですので、楽しみながら作っていただきました。これを、講習会が終わったあとも、先生たちが自分で作りたいものが作れるようになってきたかったので、今後の応用がきくように、説明しながら指導しましたところ、御自分の学校に帰られたら、また違う食べ物もつくりました。というご報告をいただけましたので、今回の講習は大成功だと思っております。</p> <p>現在、一般市民となりました私でも、こんな形で市民の皆さんの食育というとても大事な問題のお役にたてたことを本当に感謝しております。資料の次のページには、栄養士の先生たちが一生懸命作っていらっしゃる製作の風景も載せております。こういう形で、食育ということができましたことを、本当に感謝いたします。ありがとうございました。</p>
委員	<p>失礼します。14年ほど食生活改善推進委員をさせていただいて、子供の料理教室や生活習慣病予防の料理の伝達講習、運動講習などのお手伝いをさせていただいていたのですが、今度は、市民の立場に立って、伊予市の食育推進事業のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。</p> <p>先ほど向井さんもおっしゃられたように、伊予市の佐伯矩先生の認識度、認知度が余りにも低い。というのも、私も最近まで知りませんでした。例えば、野口英世さんだったら全国の皆さん御存じですよね。千円札にもなりました。野口英世さんは黄熱病の研究で一生を奉げた方なのですけれども、佐伯矩先生は、栄養学のもとをつくられた。どちらかというところのほうが日本人、私たちにとつたらとっても身近な存在ではないかと思われるのです。何で野口英</p>

	<p>世先生がこうやって全国的に有名なかといいましたら、やはり、子供のころからの絵本や道徳の本、そういうのに載っていたから、全国的に知られていたわけですね。これから佐伯矩先生のことを知っていただく、もっといろんな人に知っていただくのだったら、やはり、今のアピールの仕方じゃちょっと弱いのではないかなと思います。今回は佐伯矩先生のことをもっと広めていきたいなど。それをお手伝いできたらなと思っております。よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>中国四国農政局松山地域センターでございます。私どもでは、県内、中予地方が中心にはなるのですが、イベント等でもパネルの展示やパンフレットの配布等をさせていただいております。伊予市様のほうにおかれましては、10月19日に予定されておりますいよし健康福祉まつりで食育、また食事バランスガイドのパネルの展示やパンフレットの配布を予定しております。よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>未来づくり戦略室です。未来づくり戦略室というのは、今年の新機構改革がございまして、新しくできた部署でございます。そして、こちらの戦略室でやっていることの中で、ちょうどこの3市町が合併してちょうど10周年を迎えようとしております。これを機に未来づくり戦略室で本市が持つ良好なイメージをシティーブランドとして構築し、多様な資源や魅力を戦略的に発掘、発信していこうと考えております。シティーブランドの構築、確立することにより、市民の皆様を初め、伊予市のかかわる多くの人々が、地域に対する誇りや愛情を持ったまちづくりに取り組んでいただけることを期待しております。今年度は、シティーブランディングに取り組むための統一コンセプトの設定及び伊予市をイメージできるキャッチコピーとロゴ開発を予定しているところでございます。ちょうど月に2回なのですが、市民ワークショップを開催しております。本日御参加の方の中にも数人のワークショップに参加していただいている方がいらっしゃいます。今後は、見たい、行ってみたい、住んでみたいをモットーに、食育、食文化の推進分野からも伊予市をPRしていければいいなと考えております。以上です。</p>
委員	<p>子育て支援課です。子育て支援課では、伊予市内の保育所の実施状況について、最後の23ページをごらんになっていただけたらと思います。</p> <p>まず、伊予市内の保育所で11カ所保育所がございまして、その中で、食育だよりの発行、2園まだ実施しておりませんが、これは園だよりの中に記入するという形になっておりますので、実際には保護者へ</p>

	<p>の啓発活動を行っております。</p> <p>続いて、給食試食会、1園だけまだ実施しておりませんが、ほとんどの園が保護者を呼んでの実施をしております。</p> <p>続いて、食育会議、これは月1回、保育所は給食と切り離せない保育の一部と考えておりますので、毎月1回、食育会を行います。</p> <p>続いて、クッキング保育ですが、これは、野菜の栽培と地域、学校との連携というところに重複してまいります。地域、学校との連携の中では、先ほど伊予農の先生のほうからもお話しされましたけども、米づくり、田植えから始めます、保育所の子供たち。伊予農さんに協力していただいて、田植え、稲刈り、そしてお米になって米をみんなでつくったのを炊いて食べるというような経験、野菜づくりも種から植えて苗になり、そして実をつけて、それを高校生と一緒に料理をして食べるというような形を行っております。</p> <p>続きまして、ランチ写真及び展示の部分についてですが、各園、給食だよりに載せて、この中で展示されていない部分については、給食だよりに載せていたりするところもございます。</p> <p>あと食育講座ですが、保育所では年に1回及び年に2回育児講座が行われております。その中で育児講座の一環として食育講座、栄養士による食育講座を行っております。</p> <p>あと調理員の実習ですが、これは伊予市内にできている産物を利用しての実習に重点を置いて行っております。</p> <p>なお、最後にキッズキッチンがございますが、これは皆様方に大変御協力をいただいて、子供たちが地元の食材を利用して、自分たちでつくって、そして食べるという楽しみを味わう部分を皆さんに御協力いただいております。この場をもちましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>以上で終わります。</p>
委員	<p>失礼いたします。長寿介護課でございます。</p> <p>長寿介護課は、介護予防の観点で事業に取り組んでございます。</p> <p>まず1点目といたしまして、伊予市社会福祉協議会のほうで現在委託しておりますけれど、目玉焼きクラブ、男性料理教室というのを毎月さざなみ館のほうで実施をしております。現在参加者15名ということになってございます。</p> <p>もう一つが、介護予防教室、元気いきいき教室でございます。これは、地域包括支援センターが主催いたしまして、介護を予防する目的で、市内数カ所で開催する予定としてございます。内容につきましては、栄養について、適度な運動、認知症予防など、高齢者が生き生きと元気で暮らせるための多岐にわたる内容を予定してござ</p>

	<p>います。</p> <p>以上でございます。</p>
委員	<p>農林水産課です。</p> <p>農林水産課の取り組みといたしましては、伊予地区、双海地区において、シーフード協議会がございまして、この協議会の御協力をいただきまして、地域における魚の消費拡大を図るため、魚食普及活動事業を行っております。</p> <p>まず、伊予市シーフード協会でございますが、お魚ママさんによるお魚ヘルシー1日教室、これは料理講習会ですけど、今年度15回開催予定というふうなことでございまして、魚に対する正しい知識を身につけるとともに、魚の栄養特性や料理方法を学び、魚食普及を推進することとしております。</p> <p>また、各種イベント等における料理実演、展示試食を開催いたしまして、魚食普及のPRを行うこととしております。</p> <p>次に、双海町のシーフード協議会でございますが、先ほど上灘漁業協同組合女性部の松本部長さんのほうからも報告がありましたけど、まず体験交流学習は、しもなだ鱧祭りでのハモの骨切り体験とそしてお魚料理教室、これは出前講座等でございますが、お魚健康食の普及を図るという目的でございます。そして、イベントにおける料理実演、展示試食、トラック市とか上灘公民館まつり等において、料理実演、展示試食のほうを行いまして、魚食の普及に進めてまいることとしております。</p> <p>以上でございます。</p>
委員	<p>ブランド推進課です。ブランド推進課は、平成25年4月に伊予市農業振興センターを組織いたしまして、JA、そして県の農業指導班、農業委員会、そして我々のブランド推進課という組織が、ワンフロアで農業従事者の方に相談ができる体制づくりを行っております。そして、農業の振興や後継者の育成を図っております。</p> <p>伊予市生活研究協議会の西田会長からも説明がございましたが、本日資料にチラシを入れさせていただいております。「ふるさと小包夏編」ですが、113部のお申し込みをいただき、伊予市の産物をお届けしたところでございます。</p> <p>また、認定農業者協議会ですが、効率的かつ安定的な農業運営を目指して、地域の担い手として地産地消、安心・安全な農産物を作っております。</p> <p>伊予市青年農業者協議会ですが、各イベントへの参加。今年は伊予幼稚園の園児たちを招きまして、水稻部門の作付体験といった活動も行っております。また、ふるさと交流では、女性との交流、過</p>

	<p>去におきまして、すばらしい伴侶を得た青年もいるということ承っております。</p> <p>伊予市グリーンツーリズム協議会にしましては、西岡会長からも説明がありました。本日グリーンツーリズムのパンフレットを資料に入れておりますので、ご覧いただきたいと思っております。</p> <p>続きまして、あじの郷づくり実行委員会は、玉井委員長さんから先ほど説明がございました。民公学連携事業ということで、伊予農業高等学校におきまして、伊予農業高等学校農業教育推進協議会という組織を立ち上げまして、さまざまな食に関する、そして農に関する活動、研究を行っているところでございます。また、あじの郷の情報誌「P@CKTTO!」。これは、年間4回発行いたしております。お手元の資料に入れております。毎回旬の情報を入れております。皆様方の中で、新しい情報、旬な情報があれば、御一報いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>特産品の開発にも取り組んでおります。共栄網の大森会長さんがいりこを持っているチラシがお手元にあると思っております。これは中四国内の高速道路のサービスエリアに冊子として置いておりますものをコピーしたものでございますが、実はこの共栄網といういりこ組織、とみそ製造会社をこちらでマッチングをいたしまして、「伊予灘の共栄網のいりこみそ」を商品化いたしました。伊予灘サービスエリア限定ではございますが、598円で販売いたしております。今後このような特産品の開発を行っていきたいと考えております。また、いろんな特産品の開発やPR、そういった情報等がございましたら、御提供いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。</p>
委員	<p>経済雇用戦略課でございます。昨年度まで商工観光課という名称でありました。今年度から課名が変わっております。</p> <p>今回、資料に掲載させていただいておりますのは、第27回なかやま栗まつりでございます。来る9月23日、秋分の日ですが、なかやま栗の里公園におきまして、第27回なかやま栗まつりを開催する予定としております。今年、中山栗をアピールする企画としまして、中山栗を使った簡単でおいしいスイーツのレシピをプロの料理研究家に考案していただきまして、イベント当日、紹介する予定としております。</p> <p>また、クリ寿司、クリおこわ、クリ入り大判焼き等、クリを使ったバザーで食材としてのクリをPRしていきたいと考えております。</p> <p>この他、大阪で物産フェアがございます。県外への伊予市産のP</p>

	<p>Rを行っていききたいと思っておりますので、関係団体の皆様には是非御協力をいただきたいと思いますと考えております。</p> <p>その他各種イベントを行うわけですが、そういったところでも特産品等のPRを行っていききたいと考えておるところでございます。以上です。</p>
委員	<p>失礼します。</p> <p>伊予市教育委員会学校教育課の取り組みについて御説明をいたします。</p> <p>現在、7施設、単独調理場7施設におきまして、約3,400食、教職員を含めまして、給食を提供しております。現行の取り組みにつきましては、先ほど谷本校長先生と小畑先生より、詳しい内容を紹介いただきましたので割愛させていただきます。教育委員会では、今現在、学校給食センター整備事業を推進しております。資料を添付しておりますので、ご覧いただけたらと思います。現在、各学校で、先生にもかなり頑張ってもらって、地元の関係者といろいろな事業をやっているのですが、こうした取り組みを、今後のセンター化に伴い、どのような形で継承していけるのか。というところの、検討を進めている状況です。また、このセンターには、2階に、見学コースや研修室がございます。このような施設を活用いたしまして、今後どのような地産地消、食育の推進できるのだろうか、今現在考えております。</p> <p>最後になりますが、食育は、保護者を含め、子供たちと生産者のお互いの顔が見えるような取り組みが、将来的に必要ではないかと考えております。なかなかハードルが高い面もございます。本日ここに御参会の皆さんの活動内容、様々な情報をいただきまして、今後給食センターとタイアップできるような企画や事業があれば、また進めてまいりたいと思っておりますので、御協力をよろしく願いいたします。</p>
委員	<p>社会教育課です。</p> <p>資料の21ページに一覧として載せてございます。各地区公民館におきまして、料理教室を開催しておりますが、年1回であるものもありますし、10回といった数の実習をしている教室もございます。それぞれの公民館の特性を生かしながら、地元の方に指導をいただき、また参加者も地元の方という形で、食育のきっかけづくりというような形で、子供から高齢者まで、さまざまな世代に応じた教室を開催し、家庭の生活に生かしていただけるようなことを考えて実施をしております。</p> <p>また、先ほど出てきておりましたけれども、市民総合文化祭の中</p>

	<p>のふるさとフェスティバルというところにおきまして、伊予市の食材やふるさとの味といったものについてそれぞれ、交流をしながら市民に広げていっていただいているというような現状がございます。</p> <p>それから、先ほど向井委員さんが言われておりました、資料 11 ページになりますけれども、郡中ライフアップ講座、これは中央公民館事業でございます、市民の企画、市民企画講座と申しますか、市民の企画によって開設する講座でございます。この事業について、私、職場で公民館の担当者に聞いてみますと、やはりこの基礎栄養学の講座は非常に好評であったので、また是非こういったようなことができたらいいなと言っておりました。今年につきましては、今のところフラワーアレンジメントについての講座は 1 つ開設することが決まっているということでしたけれども、この基礎栄養学といったような形の講座を公民館のほうに企画、提案していただくと、今年になりますか、来年になりますかわかりませんが、実施ができるのではないかなと思っておりますので、皆さんの御協力をよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それから、岡田さんが言われておりましたフェルトでつくった媒体ですけれども、子供の教室には非常にいいなあと思います、先ほど聞かせていただきました。作る作業は難しいのかなあと思いましたが、ボンドで作るので簡単ですよというお話でしたので、そういったものも今後使えたらいいなあと思っております。</p> <p>また、平岡委員さんが言われていた佐伯先生の件ですけれども、非常に私も認知度が低い。北山崎小学校以外は恐らく知らない子供が非常に多いのではないかと思います。野口英世さんの話が出ておりましたけれども、野口英世記念館に行きますと、やはり野口英世さんは遊びも好きよ、ざっくばらんな人よというような展示もあまして、非常に親しめる人柄を出したような展示がございます。この佐伯先生がどういった方か私は知りませんが、人となりを入れたようなものを何かつくっていくと、より親しめるような感じがしますので、そういった展開もあればいいのかなと思いました。</p> <p>感想も含めてですけど、以上で終わります。</p>
事務局	<p>22 ページなのですが、中山地域事務所から住民自治されだにの取り組み、国体の準備委員会から国体ふるまい運動についての取り組みの報告がありましたので載せております。御確認ください。</p> <p>以上で資料 3 の食育の取り組み及び食育推進についての意見について説明を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>盛りだくさんで、大分時間も過ぎておりますが、何か御質問等ございましたら。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>学校等で地産地消の取組を進められているということ。非常にいいなと思ったのですけれども、それに対して、学校給食センターができるということが、大きなハードルになってふさがれているのだと思います。そういうことを認識されたような御発言だろうと思いますけれども、これをやっぱり地産地消の理念と学校給食センターの実務的な要請と、どちらが上なのかということをやはりしっかり私たちは考えなければいけないのではないのかなど。学校給食センター＝大量生産、コストの問題ということで、地産地消に対しては枠数が少ないというようなハードルを、いつも設けられております。従来ならば、私も、それでああそうですか。と、聞いておりました。私の個人的な意見を言えば、地産地消を推進する上では、本当は各学校の給食施設のほうがよかったと思います。実際は行政ではもう給食センター化を行うということですから。では、現実的な妥協点として、例えば、本当に毎日何千食を同じようにつくらなきゃいけないものなのかどうか。あるいは、中山、双海はこのロット数でこういうメニューでいくとか、本庁地区はこれでいくとか、本庁地区でも北山はこれでいくとか、何か工夫によって、確かに1カ月前にメニューを決めなければいけないと言うのですけれども、そのことも含めて、もっと弾力的な対応ができないのかどうか。ロット数にあわせて何か工夫ができないのかどうか。大量生産だから一律に、もう同じものしかつくれない。また、教育上の要請としての平等主義というのがある、同じものを同じ大きさのものを子供たちに提供しなきゃいけないと言うのですけれども。例えばクラスの給食係が誰々が調整して今回は大きいものあげるけど、今度は少ないよとか、そのような形で私は子供の世界の中で調整することは可能なんじゃないのかなど。大人が子供は平等でなければいけないという大前提に立って、同じもの、同じ規格、これを強いることはどうなのか。私たちの地域ではいろいろなものがとれる。しかし、大量ではない。それを、うまく取り入れた形の学校給食センターの運営、あるいは給食センターの調理室の構成といいますか、人員配置も含めて、何か上手な調整方法はないのかなあということを、今後、さらに御検討していただきたいと思います。その点、考えられることがありましたら、お答え願えたらと思います。</p>
委員	<p>1点目の件ですが、今給食センターの運用開始までに、これから2年あるのですけど、2年しかないというところで、いろいろ検討して</p>

	<p>おります。まずは、食育関係、やはり推進していききたいところではございますが、センター化に伴いましてなかなか今の取り組み全部を引き継ぐのは難しいであろうと思っております。センター化に伴いまして、そこら辺が全部衰退していくというのは、これは何とか阻止しなければいけないと考えております。ただ、28年9月に供用開始をするのですが、給食がこういったセンター化になるのが初めてのところで、当面の間は、やはり安全・安心なものを提供するという、日々の給食、それをまず大事にすると。それから、アレルギー対応をするというところで、かなりの労力が必要かと、その労力に見合うスタッフの配置は検討しております。</p> <p>まずは毎日、安全・安心な給食を提供できて、それが定着をしまして、そういった先ほどのロット数の関係でありますとか、そういったところもまた検証していききたいとは考えております。それは私、担当者の考えなのですが、そういった気持ちはありますので、御理解をいただけたらと思います。</p>
議長	<p>それでは、議題2の食育推進連絡会報告を事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>伊予市食育推進連絡会の報告をしたいと思います。</p> <p>当日配布資料の5、伊予市食育推進連絡会報告をごらんください。平成26年5月29日に開催されました第7回食育推進連絡会の報告をさせていただきます。食育推進連絡会は、市の食育関係課の職員で組織し、伊予市食育推進会議や食育に係る関係機関及び団体と連携し、食育の推進を図ることを目的として、定期的で開催しております。連絡会には、栄養健康班と地産地消班、2班あり、各課で連携して食育関係事業を進めております。</p> <p>報告1、キッズキッチンについて。</p> <p>伊予市食育1・4推進計画の中で実施するように計画されているキッズキッチンは、幼児だけで料理をする幼児料理教室であります。平成26年度、平成27年度の2年間で、全部の市立幼稚園及び保育所で開催いたします。平成26年度は8園が対象であります。</p> <p>1、運営方法。従事スタッフ、食育ボランティアについてですが、キッズキッチンは、子供二、三人に対して1人の料理指導スタッフが必要であり、現在は食育関係課のキッズキッチン担当者12人が従事しております。大勢のスタッフが必要なため、行く行くは食育ボランティアを活用していくことが望まれます。昨年、キッズキッチンの参加者アンケートで食育ボランティア募集を呼びかけたところ、3名の方が見付き、今年度は協力をお願いする予定にしております。引き続き、キッズキッチンの参加保護者に食育ボランティア</p>

	<p>募集を行うほか、保健センターの健康教室の調理実習の参加者などへも募集を検討していきます。</p> <p>そして次に、地産地消推進講師についてですが、キッズキッチンでは、料理に入る前に子供が食材に興味や関心を持つように、生産者の方が講師となり、生産の過程や苦勞についてのお話をさせていただいております。講師については、上灘のいりこ加工場に打診してみるほか、ブランド推進課、農林水産課などを通して、生産者の方をお願いしていきますので、また御協力よろしくお願いたします。</p> <p>2、パネルシアターの活用でございますが、今年度初めての取り組みとして、教室の導入部分で、子供たちの興味を引きつけるため、5分から10分程度の食育パネルシアターを各回の参加保育士、幼稚園教諭が担当して上演しようと考えております。保育所園長会、幼稚園園長会でスタッフに周知し、パネルシアターは開催園に回して使用する予定であります。</p> <p>報告2、出荷実績基礎調査の実施。</p> <p>いつ、どこで、どのぐらい、どんなものがとれているのか、本市で実際にとれている産品と量を把握するための出荷実績基礎調査の実施を検討しております。調査部分は、野菜、米穀、かんきつ、落葉果樹、魚介類、調査対象はJAえひめ中央、伊予連合農協青果、町家、中山ふるさと市、魚介類に関しては伊予漁協、上灘漁協、下灘漁協、担当課は連絡会の地産地消班の所属しております健康増進課、ブランド推進課、経済雇用戦略課、中山地域事務所、農林水産課が担当し、その後調査実施後、学校給食、食育教室などの食材の選別や伊予市の特産品としての農水産のPRに活用する予定であります。</p> <p>以上、伊予市食育推進連絡会の報告を終わります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この報告について何か御質問、御意見ございますか。</p>
事務局	<p>資料6、伊予市食育1・4推進計画の見直しについてをごらんください。</p> <p>当市では、伊予市食育1・4推進計画が平成27年度に最終年度を迎えます。26年度には、どのような方法でアンケート調査を行うか、食育推進会議及び食育推進連絡会でアンケートの対象や調査項目などについて協議、検討を行います。その後、計画の改定に向けて、食育推進の評価指標の達成状況を評価し、今後の課題と市民の健康及び食育に対する意識やニーズを把握し、計画改訂版の基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を27年度に実施する予定でございます。続いて、現行計画の評価を行い、計画の見直しに取り組</p>

みます。

見直しの背景について、国、県の状況について説明します。

国は、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進することなどを目的として、平成 17 年 7 月に食育基本法を施行し、平成 18 年 3 月には食育基本計画を策定いたしました。さらに、平成 23 年 3 月には、平成 27 年度までの 5 年間を期間として、第 2 次食育推進基本計画を策定しました。同計画では、今後の食育の推進に当たり、単なる周知にとどまらず、国民が食料の生産から消費などに至るまでの食に関するさまざまな体験活動を行うとともに、みずから食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、生涯にわたって間断なく食育を推進していくことが必要であるとしています。

平成 25 年度から開始している 21 世紀における国民健康づくり運動は、健康寿命の延伸とともに、健康格差の縮小を掲げ、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、地域などによる集団間の健康状態の差の縮小を実現することを目指しています。その栄養、食生活の分野では、適正体重を維持している者の増加、食塩摂取量の減少及び野菜と果物の摂取量の増加を具体的目標としています。

第 2 次愛媛県食育推進計画は、コンセプトを周知から実践へと切りかえ、生涯食育社会を目指し、平成 24 年度から平成 28 年度までを計画の期間として、県民との協働による課題解決や目標達成のための施策を総合的かつ計画的に推進しています。

えひめ健康づくり 21 は、全ての県民がともに支え合い、健やかで心豊かに生活できる社会の実現を目指しています。栄養、食生活の分野では、適正体重を維持している人の増加、かんきつ類を中心とした愛媛県の果物や野菜の摂取量を増やすことを目指しています。

次に、本市の状況について説明します。

伊予市食育 1・4 推進計画は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間を計画の期間として、市民が生涯にわたり健全な心身を培いながら、健やかな食生活を実践する力を身につけることを基本理念として、総合的、計画的に食育を推進しています。

伊予市食育 1・4 推進計画は、食育基本法に基づいて策定された食育推進基本計画及び愛媛県食育推進計画を基本として食育推進の指針を定めています。

また、伊予市総合計画や伊予市健康づくり計画、伊予市特定健康診査等実施計画などのほかの関係計画を踏まえた計画となっています。

	<p>第2次伊予市健康づくり計画については、平成29年度に中間評価、分析を行うとともに、見直しについて検討していきます。</p> <p>よい食習慣で適正体重を維持しようを栄養、食生活分野の基本指針としています。</p> <p>特定健康診査等実施計画については、平成29年度に第2次伊予市健康づくり計画の中間評価とあわせて見直しを行います。</p> <p>次に、今後の作業計画案について説明いたします。</p> <p>伊予市食育1・4推進計画の見直しに当たっては、食育推進会議で御意見を伺いながら作業を進めていきます。</p> <p>平成26年度から計画の評価のため、食育に関するアンケート調査の準備を開始し、調査結果を踏まえて、平成27年度中に評価、見直しを行います。計画期間を平成29年度まで延長することとして、計画内容を必要に応じて一部見直し、伊予市食育1・4推進計画改訂版を作成します。</p> <p>2ページの下の方をごらんください。</p> <p>第2次食育推進計画と第3期伊予市健康づくり計画の作成を同時期に進めていく作業計画案でございます。</p> <p>次に、4ページですが、4ページは計画の見直しの作業について流れを示しています。</p> <p>5ページは、26年度、27年度のスケジュール案です。計画は2年延長した後に、平成30年度から食育推進と健康づくりを推進する計画として進めていきます。</p> <p>6ページからは参考に計画の概要について載せています。</p> <p>以上で計画の見直しについて説明を終わります。</p>
議長	<p>このことについて何か御質問ございますか。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>先ほどの食育推進の意見は皆さん、各団体が、とても熱心に食育を推進されていることはよくわかりました。</p> <p>資料6の7ページ、食育推進の評価指標の中の指標一番上の「朝食を毎日食べている人の割合」で、小学校5年生、中学校2年は、朝食を食べている割合が高いのですが、その後、20歳から29歳までの人の朝食を毎日食べている割合が減っています。各組織、団体で、保護者対象に、とても熱心に情報提供や学習を進められているように思うのですが、この、社会に出られる18歳から20歳の方たちが、実際に実家を出たときに、食事づくりができるのかどうか。そんな方たちに、簡単に手に入る食材で、簡単に作ることでできる献立集が1つあれば、それを参考に、朝食を作って食べるという習慣ができるのではないかと思います。どうでしょうか。</p>

議長	どうぞ。
委員	御心配の説はすごくわかります。わたしの持っている文献に、県内の大学生に朝食について調査したところ、その内容は、「スナック菓子と炭酸飲料」このパターンが圧倒的に多いようなのです。親が知ったら悲鳴を上げるような食事内容です。でも、20歳ですから、それでいきなり病気になることはないのです。興味がある方はその文献をいつでもお貸しいたします。ちょっと恐るべき現代人の若者の実態です。
会長	事務局どうぞ。
事務局	先ほどレシピ集のことが出たのですが、市のほうでも市民の方に献立に困ったときなどに利用していただきたいと思ひまして、市のホームページにみんなで作るレシピ集いよし市の食育メロディーというのをつくりました。インターネットができる環境でしたら、伊予市のホームページにもレシピ集があります。今後市民の皆様にご利用していただけるようにアピールしていきたいと思ひています。
委員	先ほど言われましたレシピ集ですけれども、伊予市の食生活改善推進員たちも保健センターで講習を受け、レシピを配っておられると思うのです。それで、私ごとなんですけれども、伊予鉄の郡中駅をやっておりまして、その窓口にも、食生活改善推進員さんが伝達されているレシピを毎月置いております。結構いろんな方がとられているのです。やはり、若い方は、勧めなければ余りとってこないのですけれども、年配の方とか、一般の男の方でもこれらあっていいですか。というような感じで、皆さん興味あるような感じですよ。だから、伊予市の人が集まる場所、例えば町家さんやJR伊予市駅とか、色々なところに食改さんのレシピを、置いていただけたら、簡単に皆さんメニューに入れることができるのではないのでしょうか。本当に簡単な、そこにある材料でつくれるようなもので、お勧めですよ。
会長	ほか何か御意見ございませぬか。どうぞ。
委員	今の若い人の食生活の問題ですけども、今コンビニが社会のインフラとしてもう確立したと言ひていいと思ひます。例え若い人がコンビニに行ったときに、伊予市でそういうレシピ、若者向けレシピを、レジのときに渡していただくような要請もしたらいいのではないかなと思ひます。多分コンビニも、行政サービス機関として地位を確立されているわけですから。あるいは、商店街の各店でも結構ですし、そういう精算のときに、若い方用のレシピを「これも見てくださいね。」ということを出していただくような取り組みもあっていいのではないかなと思ひました。提案させてい

	きたいと思います。
会長	どうでしょうか。事務局、そういう提案があるのですが。
事務局	いろいろな提案をいただきましてありがとうございます。今、山内のほうから説明させていただきましたとおり、現段階ではホームページのほうで紹介させていただいて、その活用の推進に当たっているところですが、先ほど玉井委員さんの言われたように、コンビニエンスストアで会計と一緒にというのは、また検討させていただきます。今後、レシピを置く場所は、食改さんの協力もいただきながら考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いします。
委員	料理教室は毎月ありますので、その後、会員さんが個々にお友達や家庭などいろいろレシピを持って帰って配るようになっております。それと、先ほど町家さんのお魚屋さんの横にも置いいただいております。皆さん、町家さんに行ってみてください。よろしく願いいたします。
会長	<p>いろんな意見がございましたが、そのまま意見交換の場にしたいと思います。これから食育を推進する上で、意見や要望あるいは御意見などありましたら食育推進委員、食育関係のいろんな分野の方、また市民が協働で進めていく計画です。</p> <p>食育推進のアイデアもその他意見ございましたら自由にお願ひします。</p> <p>ございませんか。</p> <p>それでは、議事進行役を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>
事務局	坂本会長におかれましては、長時間にわたり議事進行をお世話になりました。最後にその他の項目ですが、事務局から何かありましたらお伝えしますので、よろしく願いします。
事務局	<p>食育フェスタほかについてお知らせがあります。</p> <p>資料7をごらんください。</p> <p>食育フェスタでは、10月19日(日)に開催するいよし健康福祉まつりに、各関係団体に出店を依頼して、伊予市でとれる食材や製造される商品を活用した伊予市のふるさとの味を紹介及び販売コーナーを設けて、食育の推進及び普及を図ることとしております。内容については、表のほうにまとめております。開催場所は、ウェルピア伊予、出店料は無料でございます。</p> <p>次の2ページをごらんください。</p> <p>過去の開催内容について載せております。</p> <p>今年度の出店団体についてですが、未定でございます。もし皆さま</p>

んの中で食育フェスタに出店していただける方がいらっしゃいましたら、是非お願いしたいと思っておりますので、事務局まで連絡をお願いいたします。

次に、3 ページの食育推進シールの配布について御紹介します。

佐伯矩博士、食育いよちゃんの食育推進キャラクターシールを食育関係団体に無料で配布し、食育フェスタなどのイベントで農産物や加工品等に張って販売することにより食育推進を啓発しております。地域のイベントや祭りなどで食品や加工品の販売をするときに、このシールを張って販売していただきたく、御協力をよろしく願います。

シールを希望される方は、保健センターまで連絡をお願いいたします。

シールは、そちらに載せてありますが、3 ページに3 種類でございます。

次に、4 ページの食育コンテストについて報告いたします。

前回会議のときにホームページにレシピ集をつくり食育コンテストとしてレシピ募集を行う計画をお伝えしました。その後の経過についてお知らせします。

平成26年3月に市のホームページにみんなでつくるレシピ集いよしの食育メロディーを作成いたしまして、レシピを募集しています。現在はまだレシピの応募はございません。レシピ集の紹介について、8月の伊予市広報へ掲載いたしました。今後、保育所給食だより、保健センター関係の教室のチラシなどに掲載し周知を図っていくことにしております。

レシピ集としては、202 の料理のレシピを載せており、市民の皆様の献立づくりにも活用していただきたいと思いますと思っております。

資料にレシピ募集要領について載せております。レシピ集に加えていただけるようなレシピがありましたら、是非レシピの提供をお願いいたします。

先ほどの食育フェスタの出店についてのお願いなのですが、もし出店していただける方がいらっしゃいましたら、今月中に健康増進課のほうに連絡していただけたらと思います。

以上、よろしく願います。

何か意見とか質問などはございませんか。

そうでしたら、次の食育推進会議ですが、来年の2月を予定しております。どうぞよろしく願います。

事務局

それでは、閉会の挨拶を副会長が申し上げます。

副会長

それでは失礼します。

	<p>大変長時間にわたりまして、大変に貴重な御意見をそれぞれの団体、個人からいただきまして、行政の側は行政の側でタイムスケジュールもあるような気がいたしております。いずれにしましても、食育を通じて最初に副市長さん申しましたように、豊かな地域をつくるのが最終的には目標でありますので、そこに向かって皆さんのさまざまな知恵を拝借しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>今日は本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上をもちまして伊予市食育推進会議を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、長時間にわたりお疲れさまでした。次回も推進会議の御出席をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>